

学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	Phawut Nueangphuet
審査委員		主査氏名	末吉 蒼雄
		副査氏名	柴崎 潤三
		副査氏名	片岡 寛幸
<p>[論文題名]</p> <p>Neutrophil and M2-polarized Macrophage Infiltration, Expression of IL-8 and Apoptosis in <i>Mycoplasma hyopneumoniae</i> pneumonia in Swine(豚の <i>Mycoplasma hyopneumoniae</i> 感染肺炎における好中球およびM2マクロファージの浸潤と、IL-8の発現およびアポトーシスについて)</p> <p>[要旨]</p> <p>本論文は、豚流行性肺炎（SEP）自然発症豚における肺病変の組織学的および免疫組織化学的特徴と、IL-8、IL-10、IL-12 および IFN-γ のアポトーシス発現および <i>Mycoplasma hyopneumoniae</i>(Mhp)量との関連性について研究されており、BALT および細気管支周囲リンパ組織の過形成は、Mhp 感染に特徴的な病変であり、また、肺胸腔には好中球やマクロファージなどの炎症性細胞が多数集積していることが示された。好中球と一部の気管支および細気管支上皮細胞は IL-8 を発現しており、肺組織内の Mhp 量との関連性が示された。さらに、マクロファージ集塊において CD163 と CD204 に対する陽性所見が得られ、CD163/CD204 陽性 M2 マクロファージの顕著な発現増加は IL-10 の発現に関連していると推定された。また、好中球、肺胞マクロファージ、リンパ球など様々な細胞でアポトーシスが認められ、そのアポトーシスは、肺組織における Mhp 量と強い相関関係を示した。さらに、気管支および細気管支上皮細胞のアポトーシスは、Mhp と共局在する領域もあり、この結果は、Mhp と宿主細胞との相互作用がアポトーシスを誘導し、病態形成に関与している可能性を示していた。</p> <p>以上の研究成果は、学位論文に値すると判断した。</p>			

最終試験結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	Phawut Nueangphuet
審 査 委 員	主 査 氏 名	末吉益雄	
	副 査 氏 名	米峰潤三	
	副 査 氏 名	片岡寛孝	
[要 旨]			
<p>申請論文の内容および関連領域について口頭で試問した結果、十分な知識を有して応答した。</p> <p>以上より、学位を授与するに値する学力を有するものと認定した。</p>			